東京下町 樹木探索

中秋の名月と秋の七草

「雨月」（厚い雲に覆われた中秋の名月）

今日2016年9月15日は、中秋の名月です。中秋というからには秋のど真ん中ということで、昔の人は8月・9月・10月頃（旧暦の7月・8月・9月）を秋と考えていたようです。そう言われてみれば立秋が8月7日で11月7日は立冬、暦（こよみ）はわれわれの感覚より約1ヶ月先行していて、先人達のせっかちさを感じます。

夜になって空を見上げれば、月は厚い雲に覆（おお）われています。 このように、雲に隠れた十五夜の月は「雨月」（うげつ）あるいは「雨名月」と云い、これはこれで風流とするのが日本人の豊かな感性だろうと思います。

亀戸龍眼寺の萩

元祖くず餅「船橋屋」

洋菓子処「ましゅまろ亭」

ところで、秋と云えば「秋の七草」。しかるにその原点は、山上憶良（やまのうえのおくら）が万葉集で詠（よ）んだ句のようです。

- ***萩（はぎ）の花　尾花（おばな）葛（くず）花　撫子（なでしこ）の花***
  女郎花（おみなへし）　また藤袴（ふぢばかま）　朝顔（あさがほ）の花

旋頭歌（せどうか）と呼ばれる五七七・五七七の音韻に誘われて万葉の時代に思いを寄せるも、よくよく考えれば草花の名前を連ねただけのなんでもない歌でありました。

萩と聞いて連想するのは亀戸の龍眼寺（りゅうげんじ）。古くから萩寺と呼ばれていて、深まりゆく秋の気配を探しに出かけて見ようと思います。 はたして境内は訪れる客もなく極めて静か、入り口には芭蕉の句碑「濡れてゆく人もおかしや　雨の萩」が飾られていて、想いは江戸時代にタイムスリップしてしまいます。

龍眼寺には、その名のとおり湧き水で顔を洗うと目が良くという噂があって、老眼でスマホの字が見えない方や、選挙前に心眼を磨きたいと思っている方には特に参拝をお勧めします。

秋の七草の葛（くず）花にあやかって、次に訪れたのは文化二年（1805年）創業の元祖くず餅「船橋屋」です。お勧めはもちろんくず餅なのですが、職場へのお土産では黄色いきな粉が散らばって食べにくいのが難点です。

どちらかと云えば、亀戸の甘味のお勧めは「ましゅまろ亭」の生マシュマロ。まん丸で大きなマシュマロは、お月見に供えるお団子の代わりになりそうです。しかしながら午前中には売り切れていて、なかなか手に入れる事が出来ません。そこを頑張って職場のお土産にしたならば、女子社員たちに「キャーキャー」言われる事、間違いありません。